

果樹カメムシ類情報第2号

平成27年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 チャバネアオカメムシの発生状況

- (1) 予察灯における誘殺数は、豊橋市、新城市ともに少ない状況が続いています（図1）。
- (2) フェロモントラップにおける誘殺数は、豊田市、幸田町、豊川市、新城市のいずれの地域でも、少ない状況が続いています（図2）。

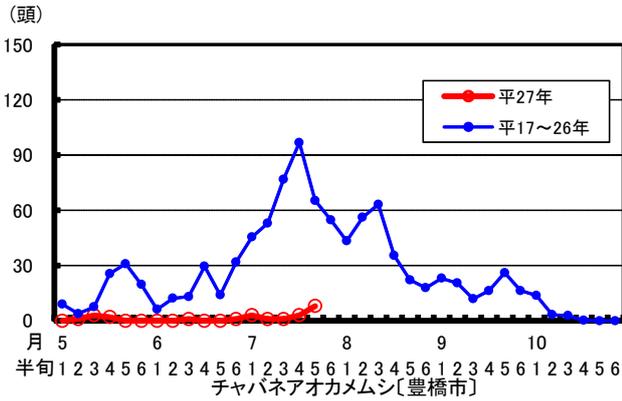


図1 予察灯における誘殺状況

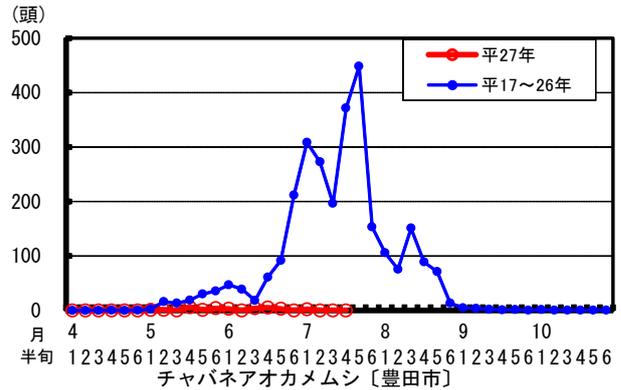


図2 フェロモントラップにおける誘殺状況

- (3) 7月下旬のヒノキ1結果枝当たりのチャバネアオカメムシの生息虫数は、成虫が、0.02頭（平年0.30頭）、幼虫は0.13頭（平年0.38頭）でした（図3）。ヒノキ球果におけるカメムシの口針鞘数が25本になると、ヒノキ球果から離脱すると言われています。7月下旬の口針鞘数は6調査地点平均で2.6本ですが、豊橋市嵩山町では8.4本、蒲郡市清田町では5.1本と他の地域に比べてやや多い状況です（表1）。

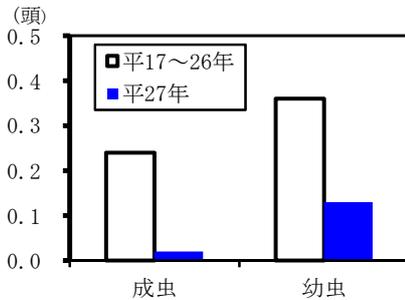


図3 7月下旬のヒノキ球果における生息虫数

表1 7月下旬のヒノキ球果における口針鞘数

調査地点	豊橋市 嵩山町	豊川市 東上町	蒲郡市 清田町	蒲郡市 神ノ郷町	岡崎市 明見町	幸田町 須美
1球果当たりの口針鞘数	8.4	0.1	5.1	0.3	1.4	0.2
離脱開始予測日	8月19日	9月19日	8月31日	9月19日	9月14日	9月19日

ヒノキ球果採取日：7月28日

2 今後の発生予測

- (1) 越冬世代成虫から新世代成虫への世代交代時期に入っています。ヒノキ球果の着生量が平年と比べやや多いため、8月上旬以降に発生する新世代成虫の発生量は、平年と比較してやや多くなると予測します。
- (2) 新世代成虫の果樹園への飛来時期は、7月下旬時点のヒノキ球果の口針鞘数から、9月上旬以降と予測します。そのため、8月における新世代成虫の果樹園への飛来量は少ないと予測します。
- (3) ただし、豊橋市嵩山町、蒲郡市清田町では、7月下旬の口針鞘数が他の地域に比べてやや多かったため、8月下旬から果樹園への飛来が始まるおそれがあります。そのため、豊橋市、蒲郡市近辺では、8月下旬以降は、果樹園内をよく見て回り、果樹カメムシ類の飛来に注意しましょう。
- (4) スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがありますので、注意しましょう。